

農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

1 モニリア病

(1) 5月の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

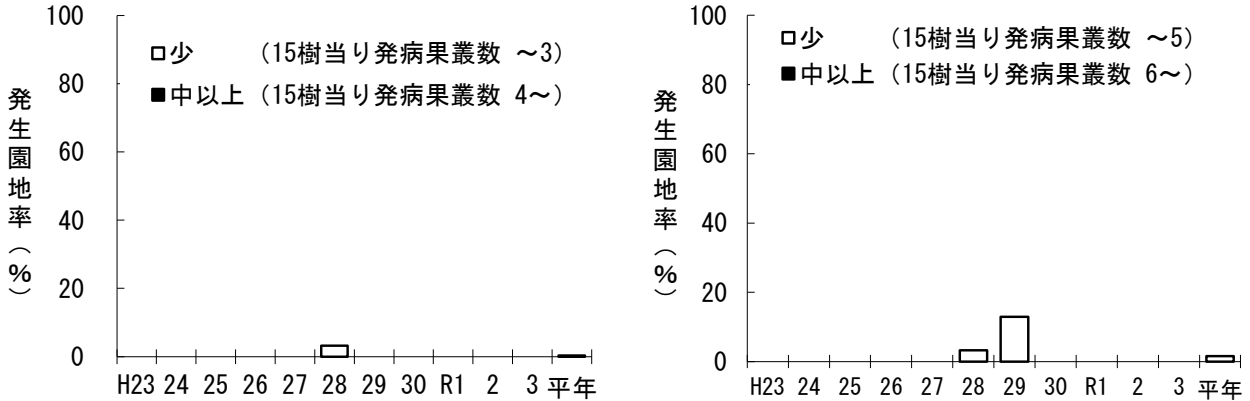


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（左図：5月前半、右図：5月後半）

2 腐らん病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は32.3%（平年43.5%）で、平年よりもやや低かったが、発生程度中以上の園地率は3.2%（平年4.2%）で平年並だった（図2）。

(2) 地域別では、県南部の発生程度中以上の園地率が9.1%（平年3.6%）で、平年よりも高かった（図3）。

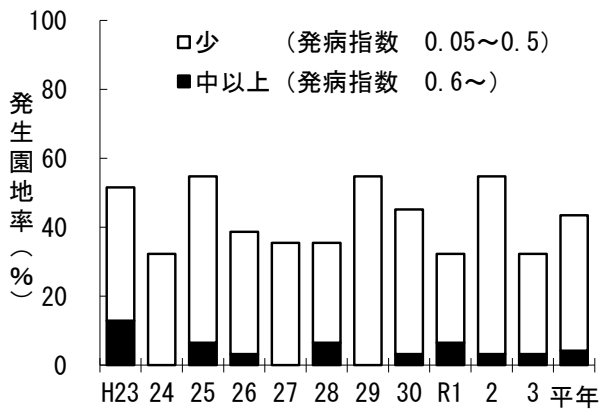


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（5月後半）

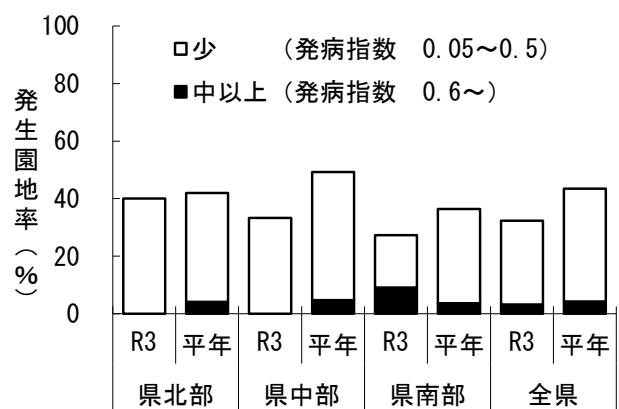


図3 腐らん病の地域別発生園地率（5月後半）

3 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市・スターキングデリシャス）では、5月24日現在、発生が確認されていない（平年初発：6月第2半旬）。

(2) 5月後半の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図4）。

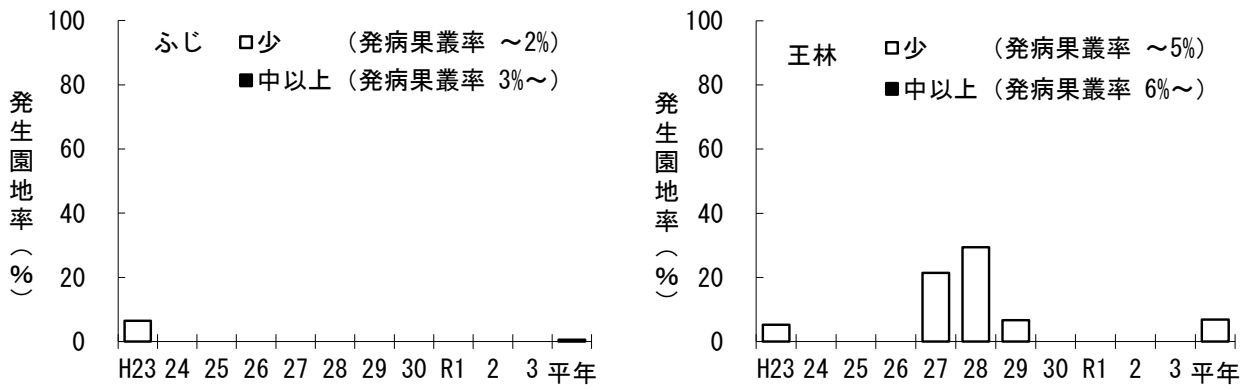


図4 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (5月後半、果叢葉、左図：ふじ、右図：王林)

4 黒星病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年0.6%) で、平年よりも高かった (図5)。

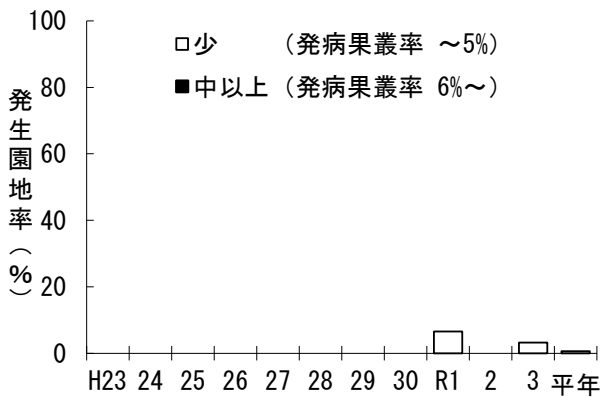


図5 黒星病の発生園地率の年次推移 (5月後半、果叢葉)

5 うどんこ病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年1.6%) で、平年並だった (図6)。

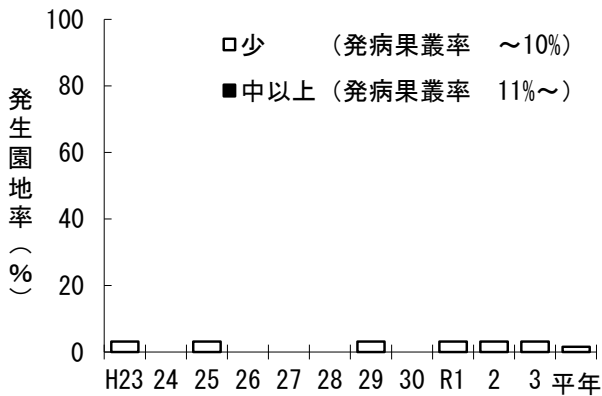


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移 (5月後半、果叢葉)

6 リンゴハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は3.2%（平年10.0%）で平年より低く、5月後半は12.9%（平年22.6%）で平年よりやや低かった。発生程度中以上の園地は、5月前半、5月後半ともに見られなかった（図7、8）。

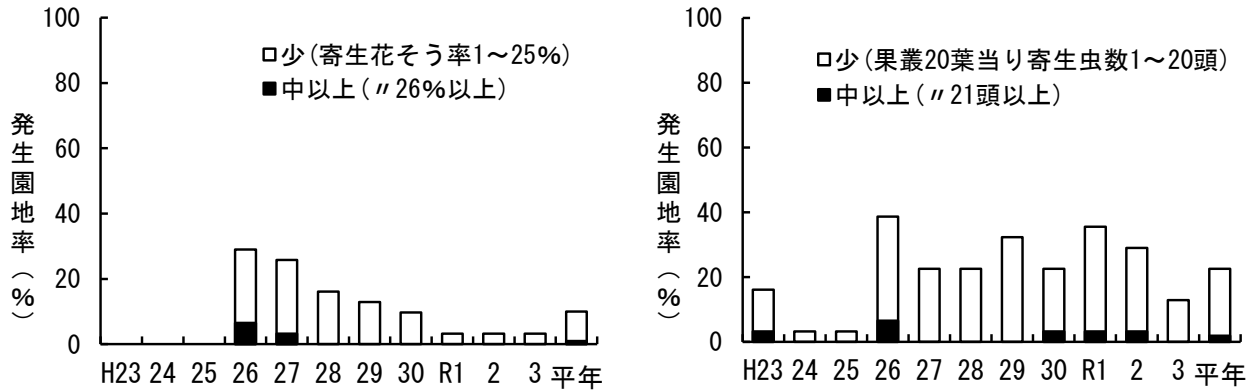


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

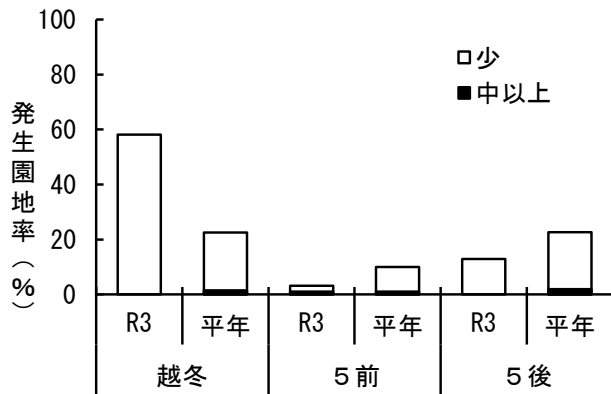


図8 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

7 ナミハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は25.8%（平年25.2%）で平年並であったが、5月後半は22.6%（平年18.1%）で平年よりやや高かった。発生程度中以上の園地は、5月前半は見られず、5月後半は9.7%（平年9.7%）で平年並であった（図9、10）。

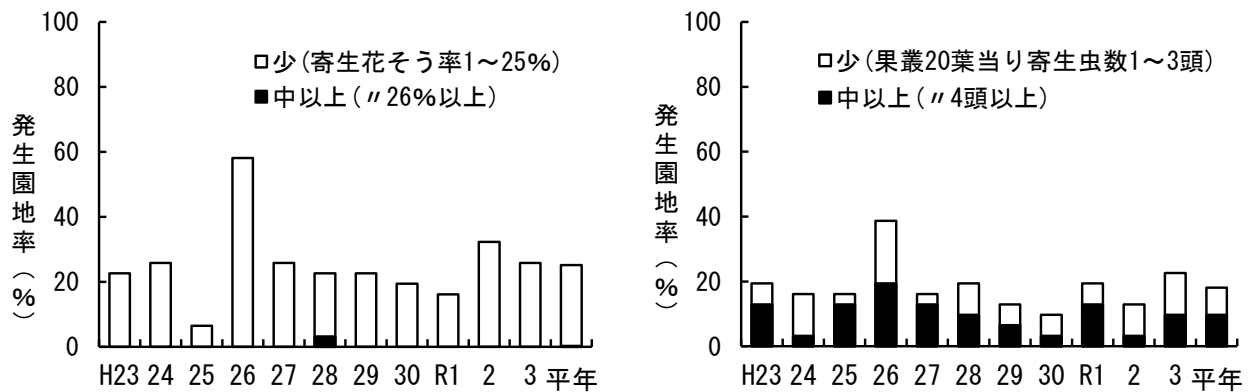


図9 ナミハダニの発生園地率の年次別推移 (左：5月前半、右：5月後半)

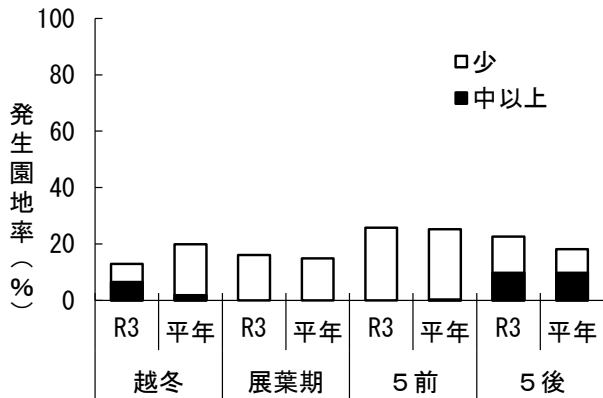


図10 ナミハダニの時期別発生状況の推移

8 ハマキムシ類

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は9.7% (平年17.3%) で平年よりやや低く、5月後半は19.4% (平年14.2%) で平年よりやや高かった (図11)。

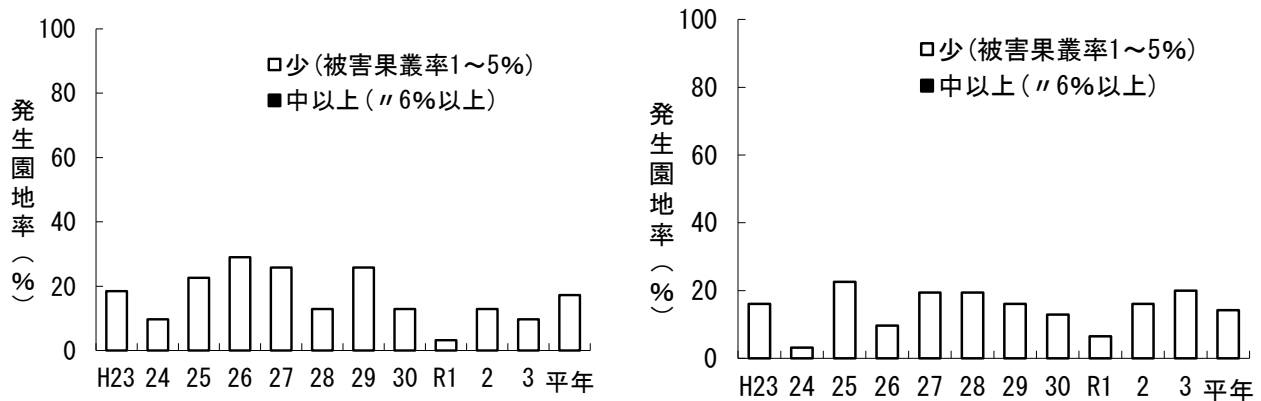


図11 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

9 ギンモンハモグリガ

(1) 5月後半の巡回調査での第1世代幼虫の発生園地率は0% (平年13.5%) であった (図12 (ページ左下))。

10 アブラムシ類

(1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は58.1% (平年43.0%) で、平年よりやや高かった (図13)。

(2) 発生が見られた種は、リンゴクビレアブラムシであった。

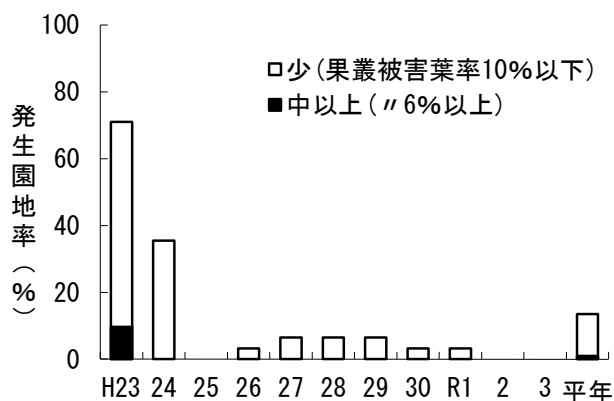


図12 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (5月後半)

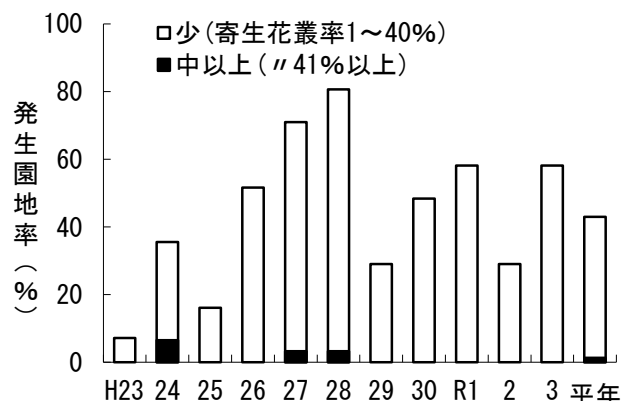


図13 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (5月前半)

11 ヤナギリリチョッキリ

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は12.9% (平年20.5%) で、平年並であった (図14)。

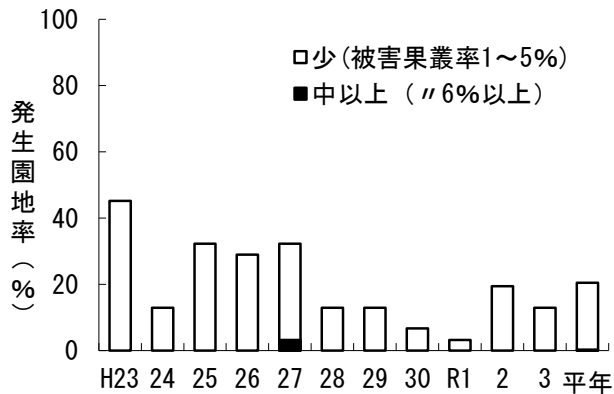


図14 ヤナギリリチョッキリの発生園地率の年次推移(5月後半)

12 モモシンクイガ

(1) 基準圃場 (北上市成田) におけるフェロモントラップには、5月第5半旬まで誘殺は見られなかった (図省略)。

13 キンモンホソガ

(1) フェロモントラップにおける越冬世代の誘殺は、基準圃場 (北上市成田) では平年より2半旬早い4月第4半旬にピークが認められた (図15、表1)。

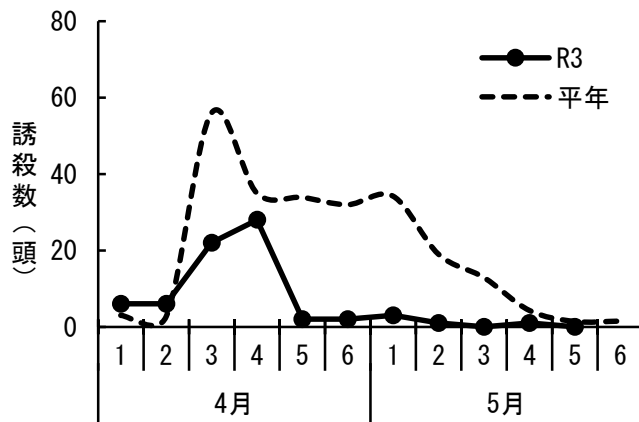


図15 基準圃におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

表1 基準圃場 (北上市成田) における平年の羽化盛期

越冬世代	第1世代	第2世代	第3世代
4月第6半旬	6月第4半旬	7月第5半旬	9月第1半旬

※平年値はH23~R2の月半旬の平均より算出

14 果樹カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）及び現地3園地（盛岡市川目、北上市更木、一関市大東町）の集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、半旬あたり0～1頭程度で、いずれも平年並に少なかった（図16）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、盛岡市川目、北上市更木とも5月第5半旬までは確認されていない（図17）。

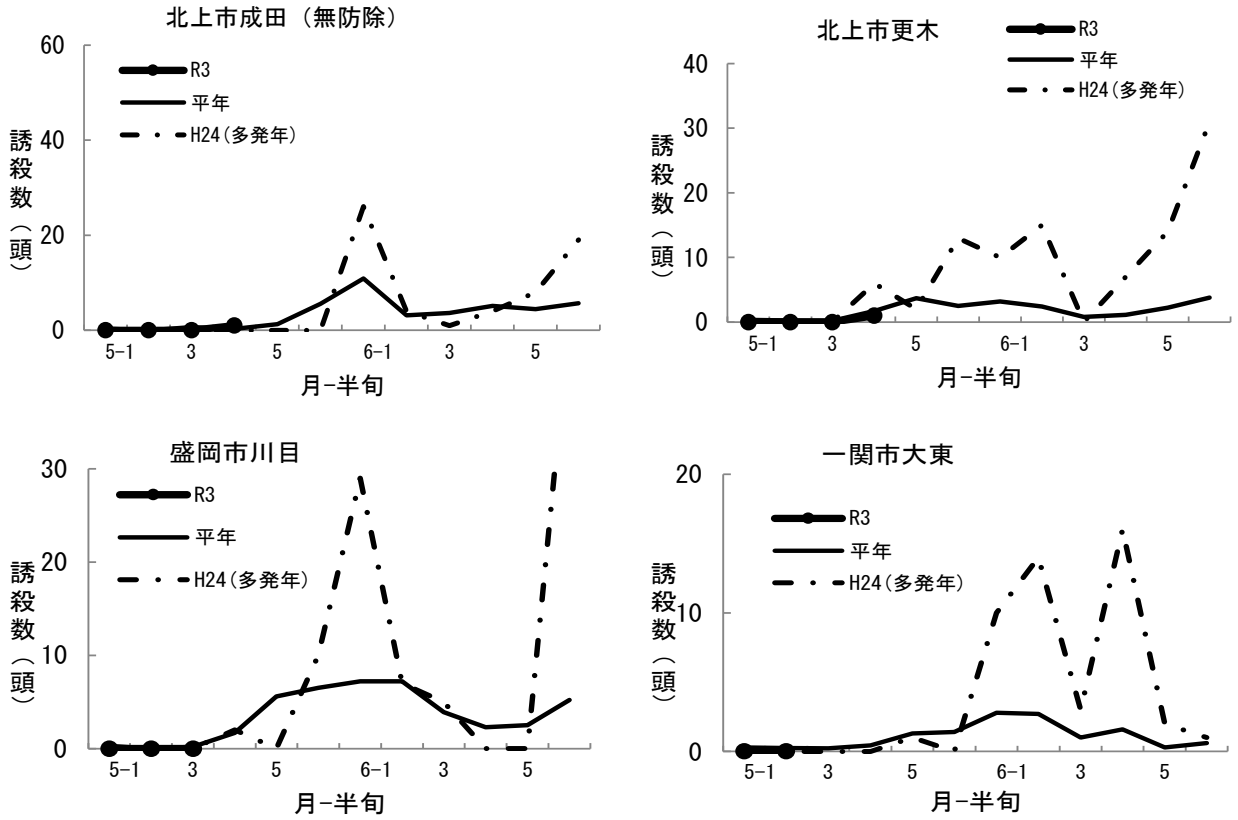


図16 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

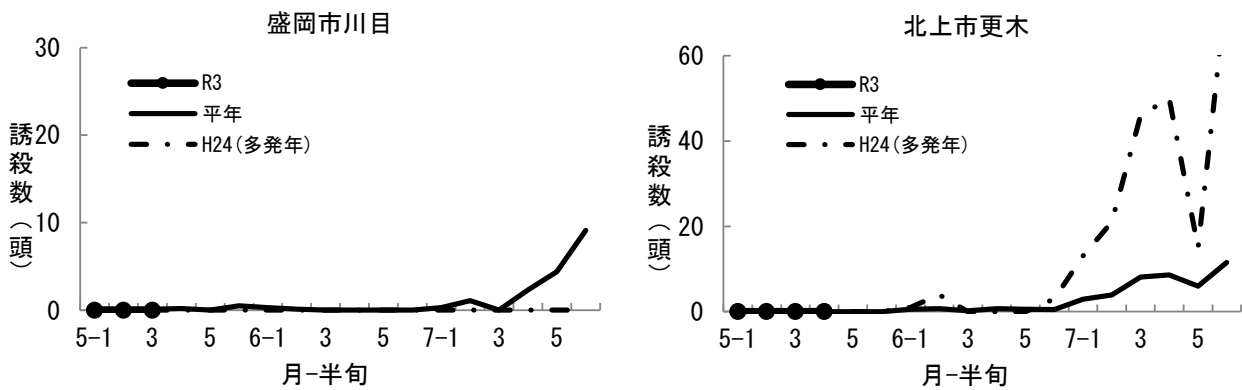


図17 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況